



## 振興諸策と積分的思考 (空・海・島の一体としての沖縄)

(7月のごあいさつ)  
平成29年7月1日(土)

沖縄は**本土復帰45年**を迎えた。

観光客数は過去最高の877万人で県経済は活気づいている。観光の好調、流通業や建設業の活況に加え、高い出生率と企業誘致による雇用の場の増加は、今まで分母が小さいと言われた**沖縄経済の基盤を拡大**した観もある。復帰時の人口96万人は144万人と約50%増加し、全国比0.89%から1.11%へと上昇した。

この機に当り、**県域として点在する島、それを繋ぐ海と空を統合して一体としての沖縄**を意識し、その発展のための思考が必要である。空港、港湾、島を立体的に統合、再編成して、部分の開発、活性化を超えて、**統合した一つの沖縄**の発展が構想できれば素晴らしいのではないか。

それは**積分的思考**であり、物事を一面的、断切的に見るばかりでなく、統合的にその実現を組み立ててみる。問題を解決するときに必要なとされることは要素の検討とその統合化である。**記号としてのアルファベット**を言葉としての表現に置き換える作業であり、いろいろなプロジェクト及び注力すべき課題等を相互に関連させて立体的に沖縄の発展を考える。多岐に渡る諸策の内容と意義と必要性の上に立って、統合化する。それは重要な計画やプロジェクト、例えば、

- (1)成長著しいアジアの活力の取り組み(沖縄県アジア経済戦略構想)
- (2)大型MICE施設等を活用した世界水準の観光リゾート地の実現
- (3)那覇空港・那覇港湾を基軸とする競争力のある国際物流拠点の形成
- (4)LPT・鉄軌道の活用を踏まえた交通政策と街づくり
- (5)IOTの実施に向けたテクノロジーへの対応と既存のビジネス常識の変革
- (6)高度人材育成と人手不足対策、(7)地方分権と地方創生
- (8)米軍基地の縮小と跡地利用等々...について**一体としてとらえた沖縄地域**に対する**統合的開発思考**である。

沖縄は東京から1,500キロの南、「日本の玄関」である。それを客観的に証明するものは、世界の最強国アメリカが日本上陸の第一番目とした地点、そして今も、県内には全国の70%にも及ぶ186km<sup>2</sup>の米軍基地があり、名護市辺野古では新基地建設が進められていることから明らかである。

空・海・島を総合的にとらえ、**本島・宮古・八重山を一体としての沖縄県**として**積分的な思考**をする、これが**沖縄発展のキーワード**であると思う。